



2023年1月13日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 オ キ サ イ ド  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 (CEO) 古 川 保 典  
(コード番号：6521 東証グロース)  
問 合 せ 先 取 締 役 副 社 長 (CFO) 山 本 正 幸  
管理本部長  
(TEL. 0551-26-0022)

### Raicol Crystals Ltd. 社 (イスラエル) の株式取得 (子会社化) に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、Raicol Crystals Ltd. (以下、「Raicol 社」) の株式を取得し子会社化することを決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

##### 1. 株式取得の理由

Raicol社は、1995年に創業したイスラエルの結晶メーカーであり、「宇宙・防衛」、「美容」、「エネルギー」、「量子」といった幅広い分野で使用される非線形光学結晶と電気光学デバイスの研究、開発、製造、販売を行っております。高い品質と信頼性を有する同社の製品 (KTP結晶<sup>i</sup>、RTP結晶<sup>ii</sup>、LBO結晶<sup>iii</sup>、BBO結晶<sup>iv</sup>およびPPKTP結晶<sup>v</sup>) は、紫外から中赤外の広い波長範囲でのレーザ学術研究や産業分野において広く利用されています。

Raicol社は、最先端のフラックス法結晶成長装置、加工装置、品質検査装置、クリーンルーム、コーティング装置を有しており、高品質で高信頼性の製品を提供しています。また、同社は豊富な経験とマーケティング力を備えた営業チームを擁し、世界各地域に販路を開拓しております。さらに、同社は、昨今の経済安全保障問題やウクライナ問題等の地政学リスクを回避する世界的な趨勢の中でも業績を拡大しております。西側諸国ではロシアや中国からの調達を停止する動きが出ておりますが、その結果、Raicol社の製品への切替需要が急伸しております。

当社は、光学単結晶とレーザを基盤技術とし「光計測・新領域」、「半導体」、「ヘルスケア」の3つの事業を展開しておりますが、当社とRaicol社には競合する製品が無く、相補的な関係となります。

今回、当社がRaicol社を子会社化することにより、以下の点で事業の拡大が期待されます。

まず一点目は、当社事業の分野拡張と成長加速です。当社の「光計測・新領域」事業では、「半導体」、「ヘルスケア」の2つの主力事業に次ぐ、新たな柱を生み出すことを目的に取り組んできました。今回の子会社化により新たに「宇宙・防衛」、「美容」、「エネルギー」事業分野へ参入できることとなります。また、成長加速の一例として、新材料開発が挙げられます。Raicol社が得意とするフラックス法結晶成長技

術に当社が保有する単結晶成長技術を融和させることで、半導体分野等で期待される新材料の製品開発を加速させることができます。

二点目は、両社の事業分野におけるシナジー効果と競争力の向上です。両社は異なる結晶を製造販売しておりますが、製品ラインナップが充実することでお客様へワンストップでの製品提供が可能となります。一例として、「量子」分野が挙げられます。Raicol社は、既に世界各地で多くの顧客を獲得しておりますが、これに当社「光計測・新領域」事業における結晶とデバイス化技術を加えることにより、量子分野のユーザーが現時点で求めているほぼ全ての種類のメモリ結晶と波長変換結晶を提供できるようになります。

三点目は、営業面におけるシナジー効果です。Raicol社は、既に欧州や米国を中心とした世界各地で広い販路と様々な知見や経験を保有しております。両社製品のクロスセルによる効率的な新規顧客開拓と世界的な販売網の強化が見込まれます。

当社は、本件を皮切りに、光学分野におけるグローバル・リーディング・カンパニーを目指して参ります。これからも、研究成果を社会に還元し、キーマテリアルを世界に向けて発信し続けていきたいと考えております。

#### 製品とその主な用途

製品	事業分野	主な用途
KTP結晶	宇宙・防衛	人工衛星用高度計、レーザレンジファインダー
	美容	脱毛用レーザ、皮膚の色素沈着治療用レーザ、タトゥー除去用レーザ
RTP結晶	宇宙・防衛	人工衛星用高度計、レーザレンジファインダー、レーザ照準器
	エネルギー	スマートグリッド用電界センサ
	機械	産業加工用レーザ
LBO結晶	半導体	ウエハ検査用紫外～可視レーザ
	精密機器	加工用紫外～可視レーザ
	美容	脱毛用レーザ、タトゥー除去用レーザ
BBO結晶	半導体	ウエハ検査用紫外レーザ
	精密機器	加工用紫外レーザ
PPKTP結晶	量子	量子暗号通信、量子コンピューティング、量子センシング

#### 2. 株式取得の方法

当社は、2023年3月1日付でRaicol社の発行済株式の全てを、Raicol Holdings Ltd.を通じて既存株主より取得する予定です。これにより、Raicol社は当社の連結子会社となる予定です。

3. 異動する子会社（Raicol社）の概要

(1) 名 称	Raicol Crystals Ltd. (ライコル・クリスタルズ・リミテッド)		
(2) 所 在 地	Hamelacha 22, Rosh Ha' Ayin, Israel		
(3) 代表者の役職・氏名	CEO Aner Yarden		
(4) 事 業 内 容	非線形光学結晶および電気光学デバイスの研究、開発、製造、販売		
(5) 資 本 金	134,230 新シェケル (5,092,686円)		
(6) 設 立 年 月 日	1995年3月23日		
(7) 大株主及び持株比率	Raicol Holdings Ltd. 82.10% (2023年1月13日時点の持株比率です。株式取得時には、Raicol Holdings Ltd. が100%を保有する見込みです。)		
(8) 上場会社と当該会社との間の関係	資本関係	該当事項はありません。	
	人的関係	該当事項はありません。	
	取引関係	製品の売買に関する通常取引関係がございます。	
(9) 当該会社の最近3年間の経営成績及び財政状態			
決 算 期	2019年12月期	2020年12月期	2021年12月期
純 資 産	40,107千新シェケル (1,521,646千円)	42,342千新シェケル (1,606,474千円)	43,972千新シェケル (1,668,289千円)
総 資 産	55,871千新シェケル (2,119,732千円)	58,618千新シェケル (2,223,960千円)	69,098千新シェケル (2,621,585千円)
1 株 当 た り 純 資 産	3.01新シェケル (114.35円)	3.17新シェケル (120.44円)	3.27新シェケル (124.17円)
売 上 高	29,038千新シェケル (1,101,719千円)	26,427千新シェケル (1,002,622千円)	28,964千新シェケル (1,098,897千円)
営 業 利 益	1,387千新シェケル (52,613千円)	2,633千新シェケル (99,911千円)	2,385千新シェケル (90,473千円)
経 常 利 益	652千新シェケル (24,739千円)	2,343千新シェケル (88,912千円)	1,858千新シェケル (70,483千円)
当 期 純 利 益	1,491千新シェケル (56,559千円)	2,175千新シェケル (82,535千円)	1,454千新シェケル (55,153千円)
1 株 当 た り 当 期 純 利 益	0.11新シェケル (4.25円)	0.16新シェケル (6.19円)	0.11新シェケル (4.11円)
1 株 当 た り 配 当 金	0	0	0

(注) () 内は、1新シェケル=37.94円(2022年12月23日現在)として算定したものととなります。

#### 4. 株式取得の相手先の概要

(1) 氏名	Raicol Holdings Ltd.
(2) 所在地	Begin St. 52 Tel Aviv - Jaffa, Israel
(3) 上場会社と当該会社との間の関係	記載すべき資本関係・人的関係・取引関係はありません。

#### 5. 取得株式数、取得価額及び取得前後の所有株式の状況

(1) 異動前の所有株式数	0株 (議決権の数：0個、所有割合：0%)
(2) 取得株式数	普通株 2,300,288株、優先株 11,134,709株 (議決権の数：13,434,997個)
(3) 取得価額の総額	取得価額 25.3百万ドル (3,360百万円) アドバイザー費用等 (概算額) 250百万円
(4) 異動後の所有株式数	普通株 2,300,288株、優先株 11,134,709株 (議決権の数：13,434,997個、所有割合：100%)

(注) 1米ドル=132.82円(2022年12月23日現在)として算定しております。

#### 6. 日程

- (1) 取締役会決議日 2023年1月13日
- (2) 契約締結日 2023年1月13日
- (3) 株式譲渡実行日 2023年3月1日 (予定)

#### 7. 会計処理の概要

当社は、本株式取得により2024年2月期第1四半期より連結決算に移行する予定です。本件に伴い、のれんも計上する見込みですが、その金額は現在精査中です。

#### 8. 今後の見通し

本株式取得により、2023年3月1日よりRaicol社は当社の連結子会社となる予定です。なお、本件による当社2023年2月期の業績に与える影響はありません。2024年2月期につきましては、当社連結業績に与える影響を現在精査中ではありますが、当社の業績向上に資するものと考えております。なお、2024年2月期の予想は、2023年2月期の決算発表時に連結ベースで公表させていただく予定です。

今後公表すべき事項が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

以上

(参考) 当期業績予想 (2023 年 1 月 13 日公表分) 及び前期実績

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
当期業績予想 (2023 年 2 月期)	百万円 5,870	百万円 516	百万円 550	百万円 387
前期実績 (2022 年 2 月期)	4,756	596	598	495

### 【株式会社オキサイドについて】

オキサイドは、国立研究開発法人物質・材料研究機構発のベンチャー企業として2000年に設立。山梨県北杜市に本社と工場、神奈川県横浜市保土ヶ谷区に事業所があります。21世紀の光の時代に必要不可欠な単結晶・光部品・レーザ光源・光計測装置の開発・製造・販売を主力とし、「光計測・新領域」、「半導体」、「ヘルスケア」の3つの事業を展開しています。2014年には経済産業省の「グローバルニッチトップ100選」に選定、2021年2月にはForbes Japan 主催の「スモール・ジャイアンツ アワード2021」のグランプリを受賞しました。当社の特徴は、(1)単結晶・光学関連の専門家・技術者が多数在籍し、研究開発型の事業会社として成長している、(2)国内外の企業から光学関連技術を買収し製品化・事業化するノウハウを有している一ことであり、これらが独創性や競争優位性の源泉となっております。

OXIDE ホームページ: <https://www.opt-oxide.com>

お問い合わせ先: [ir@opt-oxide.com](mailto:ir@opt-oxide.com)

### 【Raicol Crystals Ltd. について】

Raicol 社は、1995年に設立。イスラエル中部に位置するロッシュ・ハイム市に拠点があります。同社は、非線形光学結晶の育成と電気光学デバイスの製造を行っております。同社が保有するフラックス法で育成されたKTP、LBO、BBO、RTP単結晶は、高品質でかつ信頼性に優れているため、宇宙・防衛、美容、エネルギー、量子の分野で世界的に活用されております。

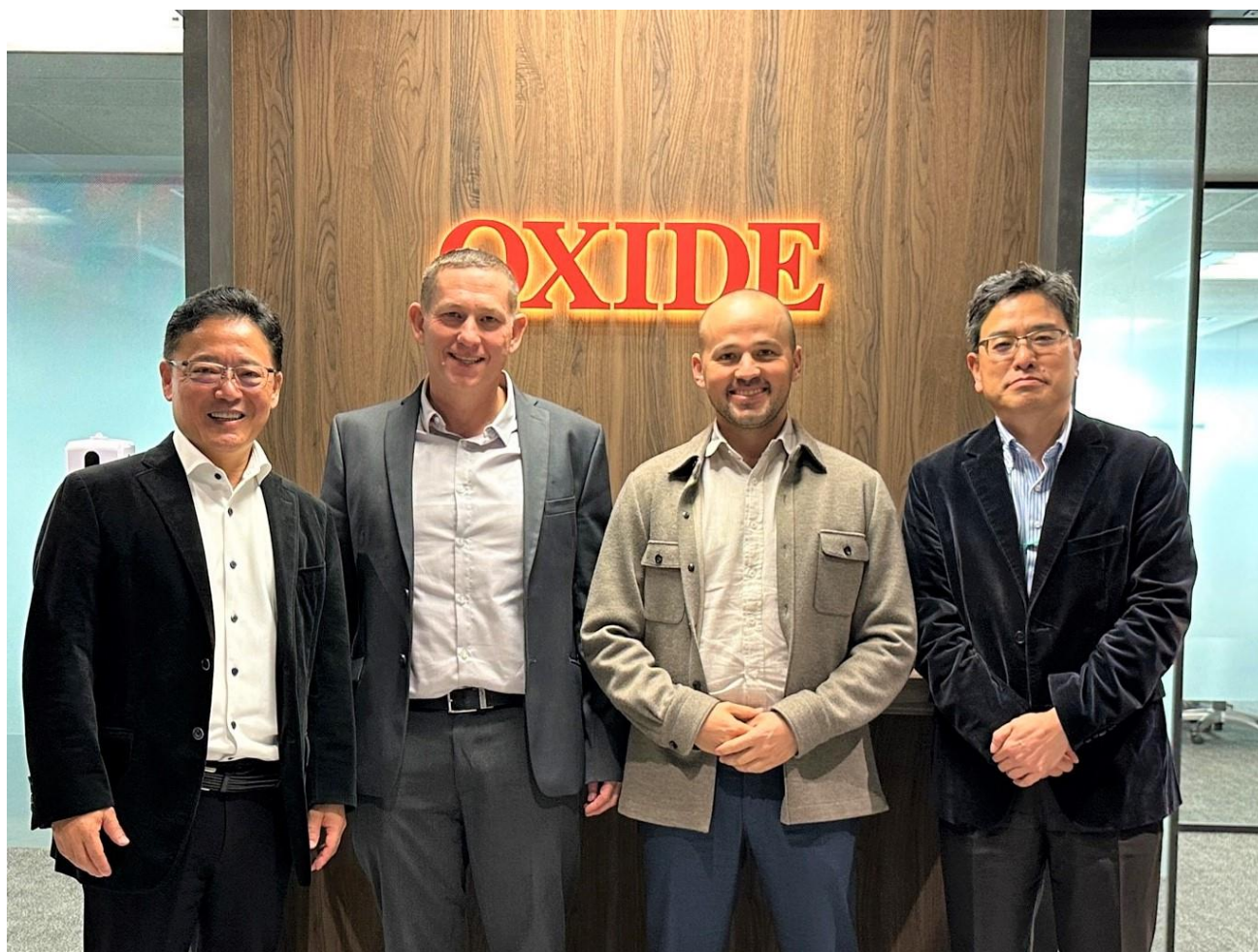
Raicol 社ホームページ: <https://raicol.com/>

---

### 【用語解説】

- <sup>i</sup> KTP 結晶 ( $\text{KTiOPO}_4$ 、リン酸チタニルカリウム)  
レーザ照射によるダメージへの耐性が高い結晶です。波長変換の効率がよく、温度安定性にも優れています。固体レーザの第二高周波発生等に利用されます。
- <sup>ii</sup> RTP 結晶 ( $\text{RbTiOPO}_4$ 、ルビジウムチタニルリン酸塩)  
レーザ照射によるダメージへの耐性が高い結晶です。伝搬する光を電気で制御する電気光学効果を示します。ハイパワーのレーザ応用製品等に利用されます。
- <sup>iii</sup> LBO 結晶 ( $\text{LiB}_3\text{O}_5$ 、三ホウ酸リチウム)  
波長変換の効率がよく、レーザ照射によるダメージへの耐性が高い結晶です。ハイパワーのレーザ応用製品等に利用されます。固体レーザの第二、第三高周波発生用素子として広く使用されています。
- <sup>iv</sup> BBO 結晶 ( $\beta\text{-BaB}_2\text{O}_4$ 、 $\beta$ ホウ酸バリウム)  
広いスペクトル範囲に適合しており、固体レーザの第二、第三、第四、第五高周波を生成します。
- <sup>v</sup> PPKTP 結晶 (周期分極反転 KTP)  
周期分極反転構造を持ったKTPです。レーザ照射によるダメージへの耐性や波長変換の効率は、KTPに比べさらに高くなります。

(参考)



(左から)

当社代表取締役CEO 古川保典

Raicol Crystals Ltd. CEO Aner Yarden

Raicol Holdings Ltd. Board Member Micha Jesselson

当社取締役CFO 山本正幸